

2026年(令和8年)年頭のご挨拶



(一財)長崎県剣道連盟 会長 灰谷達明

長崎県剣道連盟の会員各位、剣道を愛する皆様におかれましては、健やかに年明けを迎えられたこととお喜び申し上げます。

思えば、新型コロナウイルス感染症が流行し7年目を迎え、ここにきてようやくパンデミックは収束に向かいガイドラインに従えば稽古や試合などに大きな影響はないと判断されるに至っておりますので今後、益々交流や研修の輪が広まっていくものと期待いたします。

さて、本年は「丙午」の年です、以前は迷信による出生数の低下もありましたが、剣道界における女性の活躍は目覚ましく、現在剣道有段者数は208万人余で、その内女性は63万人余を占め、30%を超えております。居合道や杖道においては8段が存在いたします。ただし剣道ではいまだ女性の合格者は現れておりませんが、わが県には有力な候補者がおりますので、大いに期待されるところで。

昨年を振り返りますと、連盟組織のガバナンスやハラスメント等のトラブルは耳にすることはほとんどありませんでしたが、引き続き協調・協和の精神を醸成していきます。

大会結果では、滋賀国スポにおける総合6位は正に称えられる快挙でした。全日本選手権では、林田匡平選手の活躍は見事でした。松崎賢士郎選手に逆転勝ち、星子啓太選手を追い詰めた不屈の闘志は長く記憶に残ることでしょう。

少年剣士の全国大会での上位進出、高校生の玉竜旗における見事な戦いは今後に大きな夢を抱かせるものでした。

その他、2回目の二道体験会、全剣連後援幼少年少女剣道講習会では多くの皆様の参加をいただき成功裏に終了したことは大きな成果でした。指導に当たられました、國友秀三秀先生や飯田通子先生など講師陣に厚く御礼申し上げます。

難関剣道8段の壁を破られました畝本不可止先生、全剣連から剣道有功賞を授与された今里 忍先生には更なるご精武を期待いたします。

剣道連盟として今後繋がる計画や試みには「午年の尻上がり」の如く果敢に挑んでまいります。



全日本剣道選手権 林田匡平選手



国スポ滋賀大会 成年男子長崎県代表



国スポ滋賀大会 成年女子長崎県代表



国スポ滋賀大会 少年男女長崎県代表

